

～ほっとプラザ館内の暖房が入りました、晩秋です～

ザックリと

<今月もこのテーマです>

お話します

心理検査と知能検査について

これまで WISC-IV の検査について説明をしてきましたが、WISC-IV については今月が最終回です。今回は検査結果からどんな支援・指導を考えていくかがテーマです。具体的な数値を例にして見ていきます。

長所活用型指導

検査者は検査中の様子や行動観察も踏まえて検査結果の解釈を行い、全 IQ や指標得点と併せて子どもや保護者に説明（フィードバック）を行います。当相談室では、保護者のご要望によっては園や学校へフィードバックを行い、連携を図りながらより最適な支援を一緒に考えます。

さて、実際にどのようにフィードバックされるのでしょうか。例えば、「パズルのように手を使って見本通りに動かす課題の時は楽しそうに取り組んでいました。しかし、耳で聞く課題の時は集中できず、飽きてしまうことがありました」と、検査中に観察した様子も解釈をして伝えます。子どもの得意・不得意を明らかにして支援の方法を考えていくという進め方です。

WISC-IV では「言語理解」「知覚推理」「ワーキングメモリー」「処理速度」等は数値（標準得点）で算出されますが、信頼区間で示されるように「幅のある」数値です。数値だけに囚われて数値を上げようとする、子どもにとって必要な支援がされない可能性があります。検査結果はあくまで子どもの得意・不得意を見つけて、どんな支援が必要かをみんなで考える材料になります。

全 IQ～90
言語理解～80
知覚推理～100
WM～70
処理速度～110



例えば左のような子どもがいたとします。まずは得意なところから見ていきます。

検査者: お子さんは処理速度と知覚推理の能力が高いですね。得意なことは見たものとしてシンプルな作業をすることです。パズルのように手本を見て完成させる課題は得意でいきいきとしていました。

母: 普段でも得意なことはすばやくやりますね。

検査者: 逆に言語理解と WM が低いので、言葉での説明や指示を一時的に記憶するのが苦手です

父: どうしたらいいんですか？

検査者: 言葉での指示だけでは忘れてしまうことがあるので、指示するときはメモに書いて渡してあげるといいですよ。

このように、何が得意か、何の能力が高いか・低いかを測ることが大切です。誰でも短所を改善させられるよりも、長所をほめて認められ、それをいかして生活したいですよね。他人と比較するのではなく、自分の中の得意・不得意を見つけるための検査なのです。